「金融商品に関するお客さま本位の業務運営」
～取組状況・令和４年度（２０２２年度）～

東春信用金庫

掲載・更新年月日: 2023年5月30日

金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」との対応関係表

金融事業者の名称	東春信用金庫
■取組方針掲載ページのURL ：	http://www.toshun.co.jp/files/fiduciary.php
■取組状況掲載ページのURL ：	http://www.toshun.co.jp/files/fiduciary/202303.pdf

原 則			実施・不実施 ※6	取組方針の該当箇所 ※6	取組状況の該当箇所 ※6
原則2	【顧客の最善の利益の追求】 金融事業者は、高度の専門性と職業倫理を保持し、顧客に対して誠実・公正に業務を行い、顧客の最善の利益を図るべきである。金融事業者は、こうした業務運営が企業文化として定着するよう努めるべきである。		実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②
	（注）	金融事業者は、顧客との取引に際し、顧客本位の良質なサービスを提供し、顧客の最善の利益を図ることにより、自らの安定した顧客基盤と収益の確保につなげていくことを目指すべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①②③
原則3	【利益相反の適切な管理】 金融事業者は、取引における顧客との利益相反の可能性について正確に把握し、利益相反の可能性がある場合には、当該利益相反を適切に管理すべきである。金融事業者は、そのための具体的な対応方針をあらかじめ策定すべきである。		実施	P.9 4. お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】①
	（注）	金融事業者は、利益相反の可能性を判断するに当たって、例えば、以下の事情が取引又は業務に及ぼす影響についても考慮すべきである。 ・ 販売会社が、金融商品の顧客への販売・推奨等に伴って、当該商品の提供会社から、委託手数料等の支払を受ける場合 ・ 販売会社が、同一グループに属する別の会社から提供を受けた商品を販売・推奨等する場合 ・ 同一主体又はグループ内に法人営業部門と運用部門を有しており、当該運用部門が、資産の運用先に法人営業部門が取引関係等を有する企業を選ぶ場合	実施	P.9 4. お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】①
原則4	【手数料等の明確化】 金融事業者は、名目を問わず、顧客が負担する手数料その他の費用の詳細を、当該手数料等がどのようなサービスの対価に関するものかを含め、顧客が理解できるよう情報提供すべきである。		実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施 P.15 『投資信託の手数料に関する情報提供』	P.4 【取組状況】④
原則5	【重要な情報の分かりやすい提供】 金融事業者は、顧客との情報の非対称性があることを踏まえ、上記原則4に示された事項のほか、金融商品・サービスの販売・推奨等に係る重要な情報を顧客が理解できるよう分かりやすく提供すべきである。		実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①③④⑤
	（注1）	重要な情報には以下の内容が含まれるべきである。 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの基本的な利益（リターン）、損失その他のリスク、取引条件 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品の組成に携わる金融事業者が販売対象として想定する顧客属性 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの選定理由（顧客のニーズ及び意向を踏まえたものであると判断する理由を含む） ・ 顧客に販売・推奨等を行う金融商品・サービスについて、顧客との利益相反の可能性がある場合には、その具体的内容（第三者から受け取る手数料等を含む）及びこれが取引又は業務に及ぼす影響	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①③④⑤
	（注2）	金融事業者は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等する場合には、個別に購入することが可能であるか否かを顧客に示すとともに、パッケージ化する場合としない場合を顧客が比較することが可能となるよう、それぞれの重要な情報について提供すべきである（（注2）～（注5）は手数料等の情報を提供する場合においても同じ）。	実施	P.3 1. お客さまのニーズに適した商品ラインアップの整備とサービスの充実 P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】④
	（注3）	金融事業者は、顧客の取引経験や金融知識を考慮の上、明確、平易であって、誤解を招くことのない誠実な内容の情報提供を行うべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①③④⑤
	（注4）	金融事業者は、顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの複雑さに見合った情報提供を、分かりやすく行うべきである。単純でリスクの低い商品の販売・推奨等を行う場合には簡潔な情報提供とする一方、複雑又はリスクの高い商品の販売・推奨等を行う場合には、顧客において同種の商品の内容と比較することが容易となるように配意した資料を用いつつ、リスクとリターンの関係など基本的な構造を含め、より分かりやすく丁寧な情報提供がなされるよう工夫すべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②④⑤
	（注5）	金融事業者は、顧客に対して情報を提供する際には、情報を重要性に応じて区別し、より重要な情報については特に強調するなどして顧客の注意を促すべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】④⑤

原則6	【顧客にふさわしいサービスの提供】 金融事業者は、顧客の資産状況、取引経験、知識及び取引目的・ニーズを把握し、当該顧客にふさわしい金融商品・サービスの組成、販売・推奨等を行うべきである。		実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②③
	（注1）	金融事業者は、金融商品・サービスの販売・推奨等に関し、以下の点に留意すべきである。 ・ 顧客の意向を確認した上で、まず、顧客のライフプラン等を踏まえた目標資産額や安全資産と投資性資産の適切な割合を検討し、それに基づき、具体的な金融商品・サービスの提案を行うこと ・ 具体的な金融商品・サービスの提案は、自らが取り扱う金融商品・サービスについて、各業法の枠を超えて横断的に、類似商品・サービスや代替商品・サービスの内容（手数料を含む）と比較しながら行うこと ・ 金融商品・サービスの販売後において、顧客の意向に基づき、長期的な視点にも配慮した適切なフォローアップを行うこと	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施 P.8 3. フォローアップを通じたお客さまとの信頼関係の構築	P.4 【取組状況】②③ P.8 【取組状況】①②
	（注2）	金融事業者は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等する場合には、当該パッケージ全体が当該顧客にふさわしいかについて留意すべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】⑤
	（注3）	金融商品の組成に携わる金融事業者は、商品の組成に当たり、商品の特性を踏まえて、販売対象として想定する顧客属性を特定・公表するとともに、商品の販売に携わる金融事業者においてそれに沿った販売がなされるよう留意すべきである。	実施	P.3 1. お客さまのニーズに適した商品ラインアップの整備とサービスの充実 P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】④
	（注4）	金融事業者は、特に、複雑又はリスクの高い金融商品の販売・推奨等を行う場合や、金融取引被害を受けやすい属性の顧客グループに対して商品の販売・推奨等を行う場合には、商品や顧客の属性に応じ、当該商品の販売・推奨等が適当かより慎重に審査すべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②④⑤
	（注5）	金融事業者は、従業員がその取り扱う金融商品の仕組み等に係る理解を深めるよう努めるとともに、顧客に対して、その属性に応じ、金融取引に関する基本的な知識を得られるための情報提供を積極的に行うべきである。	実施	P.4 2. お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②
原則7	【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】 金融事業者は、顧客の最善の利益を追求するための行動、顧客の公正な取扱い、利益相反の適切な管理等を促進するように設計された報酬・業績評価体系、従業員研修その他の適切な動機づけの枠組みや適切なガバナンス体制を整備すべきである。		実施	P.9 4. お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】②③
	（注）	金融事業者は、各原則（これらに付されている注を含む）に関して実施する内容及び実施しない代わりに講じる代替策の内容について、これらに携わる従業員に周知するとともに、当該従業員の業務を支援・検証するための体制を整備すべきである。	実施	P.9 4. お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】②③

【照会先】	
部署	東春信用金庫　業務推進部
連絡先	（代表）0568-72-2181

東春信用金庫が制定している『「金融商品に関するお客さま本位の業務運営」取組方針』は金融庁が公表している「顧客本位の業務運営に関する原則」に対応しています。

《対応関係表》

金融庁が公表している 「顧客本位の業務運営に関する原則」	取組方針の該当箇所	取組状況の該当箇所
原則１.【顧客本位の業務運営に関する方針の策定・公表等】 金融事業者は、顧客本位の業務運営を実現するための明確な方針を策定・公表するとともに、当該方針に係る取組状況を定期的に公表すべきである。当該方針は、より良い業務運営を実現するため、定期的に見直されるべきである。	当金庫では、『「金融商品に関するお客さま本位の業務運営」取組方針』を策定し公表しています。 また、その取組状況を定期的に公表しています。 なお、当該方針は取組状況に応じて定期的に見直すこととしています。	
（注）金融事業者は、顧客本位の業務運営に関する方針を策定する際には、取引の直接の相手方としての顧客だけでなく、インベストメント・チェーンにおける最終受益者としての顧客をも念頭に置くべきである。		
原則２.【顧客の最善の利益の追求】 金融事業者は、高度の専門性と職業倫理を保持し、顧客に対して誠実・公正に業務を行い、顧客の最善の利益を図るべきである。金融事業者は、こうした業務運営が企業文化として定着するよう努めるべきである。	P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②
（注）金融事業者は、顧客との取引に際し、顧客本位の良質なサービスを提供し、顧客の最善の利益を図ることにより、自らの安定した顧客基盤と収益の確保につなげていくことを目指すべきである。	P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①②③
原則３.【利益相反の適切な管理】 金融事業者は、取引における顧客との利益相反の可能性について正確に把握し、利益相反の可能性がある場合には、当該利益相反を適切に管理すべきである。金融事業者は、そのための具体的な対応方針をあらかじめ策定すべきである。	P.9 ４．お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】①
（注）金融事業者は、利益相反の可能性を判断するに当たって、例えば、以下の事情が取引又は業務に及ぼす影響についても考慮すべきである。 ・ 販売会社が、金融商品の顧客への販売・推奨等に伴って、当該商品の提供会社から、委託手数料等の支払いを受ける場合 ・ 販売会社が、同一グループに属する別の会社から提供を受けた商品を販売・推奨等する場合 ・ 同一主体又はグループ内に法人営業部門と運用部門を有しており、当該運用部門が、資産の運用先に法人営業部門が取引関係等を有する企業を選ぶ場合	P.9 ４．お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】① （※別途、「利益相反管理方針の概要」を HP で公表しています。）
原則４.【手数料等の明確化】 金融事業者は、名目を問わず、顧客が負担する手数料その他の費用の詳細を、当該手数料がどのようなサービスの対価に関するものかを含め、顧客が理解できるよう情報提供すべきである。	P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施 P.15 『投資信託の手数料に関する情報提供』	P.4 【取組状況】④
原則５.【重要な情報の分かりやすい提供】 金融事業者は、顧客との情報の非対称性があることを踏まえ、上記原則４に示された事項のほか、金融商品・サービスの対価に関するものかを顧客が理解できるよう情報提供すべきである。	P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①③④⑤
（注１） 重要な情報には以下の内容が含まれるべきである。 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの基本的な利益（リターン）、損失その他のリスク、取引条件 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品の組成に携わる金融事業者が販売対象として想定する顧客属性 ・ 顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの選定理由（顧客のニーズ及び意向を踏まえたものであると判断する理由を含む） ・ 顧客に販売・推奨等を行う金融商品・サービスについて、顧客との利益相反の可能性がある場合には、その具体的内容（第三者から受け取る手数料等を含む）及びこれが取引又は業務に及ぼす影響	P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①③④⑤
（注２）金融事業者は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨する場合には、個別に購入することが可能であるか否かを顧客に示すとともに、パッケージ化する場合としない場合を顧客が比較することが可能となるよう、それぞれの重要な情報について提供すべきである。（（注２）～（注５）は手数料等の情報を提供する場合においても同じ）。	P.3 １．お客さまのニーズに適した商品ラインアップの整備とサービスの充実 P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】④
（注３）金融事業者は、顧客の取引経験や金融知識を考慮の上、明確、平易であって、誤解を招くことのない誠実な内容の情報提供を行うべきである。	P.4 ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】①③④⑤

	（注４）金融事業者は、顧客に対して販売・推奨等を行う金融商品・サービスの複雑さに見合った情報提供を、分かりやすく行うべきである。単純でリスクの低い商品の販売・推奨等を行う場合には簡潔な情報提供とする一方、複雑又はリスクの高い商品の販売・推奨等を行う場合には、顧客において同種の商品の内容と比較することが容易となるように配慮した資料を用いつつ、リスクとリターンの関係など基本的な構造を含め、より分かりやすく丁寧な情報提供がなされるよう工夫すべきである。	P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②④⑤
	（注５）金融事業者は、顧客に対して情報を提供する際には、情報を重要性に応じて区分し、より重要な情報については特に強調するなどして顧客の注意を促すべきである。	P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】④⑤
	原則６．【顧客にふさわしいサービスの提供】 金融事業者は、顧客の資産状況、取引経験、知識及び取引目的・ニーズを把握し、当該顧客にふさわしい金融商品・サービスの組成、販売・推奨等を行うべきである。	P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②③
	（注１）　金融事業者は、金融商品・サービスの販売・推奨に関し、以下の点に留意すべきである。 ・　顧客の意向を確認した上で、まず、顧客のライフプラン等を踏まえた目標資産額や安全資産と投資性資産の適切な割合を検討し、それに基づき、具体的な金融商品・サービスの提案を行うこと ・　具体的な金融商品・サービスの提案は、自らが取り扱う金融商品・サービスについて、各業法の枠を超えて横断的に、類似商品・サービスや代替商品・サービスの内容（手数料を含む）と比較しながら行うこと ・　金融商品・サービスの販売後において、顧客の意向に基づき、長期的な視点に配慮した適切なフォローアップを行うこと	P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施 P.８ ３．フォローアップを通じたお客さまとの信頼関係の構築	P.4 【取組状況】②③ P.8 【取組状況】①②
	（注２）金融事業者は、複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨する場合には、当該パッケージ全体が当該顧客にふさわしいかについて留意すべきである。	P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】⑤
	（注３）金融商品の組成に携わる金融事業者は、商品の組成に当たり、商品の特性を踏まえて、販売対象として想定する顧客属性を特定・公表するとともに、商品の販売に携わる金融事業者においてそれに沿った販売がなされるよう留意すべきである。	P.３ １．お客さまのニーズに適した商品ラインアップの整備とサービスの充実 P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】④
	（注４）金融事業者は、特に、複雑又はリスクの高い金融商品の販売・推奨等を行う場合や、金融取引被害を受けやすい属性の顧客グループに対して商品の販売・推奨等を行う場合には、商品や顧客の属性に応じ、当該商品の販売・推奨等が適当かより慎重に審査すべきである。	P.４ ２．お客さま本位のコンサルティングの実施	P.4 【取組状況】②④⑤
	（注５）金融事業者は、従業員がその取り扱う金融商品の仕組み等に係る理解を深めるよう努めるとともに、顧客に対して、その属性に応じ、金融取引に関する基本的な知識を得られるための情報提供を積極的に行うべきである。	P.９ ４．お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】②
	原則７．【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】 金融事業者は、顧客の最善の利益を追求するための行動、顧客の公正な取扱い、利益相反の適切な管理等を促進するように設計された報酬・業績評価体系、従業員研修その他の適切な動機づけの枠組みや適切なガバナンス体制を整備すべきである。	P.９ ４．お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】②③
	（注）金融事業者は、各原則（これらに付せられている注を含む）に関して実施する内容及び実施しない代わりに講じる代替策の内容について、これらに携わる従業員に周知するとともに、当該従業員の業務を支援・検証するための体制を整備すべきである。	P.９ ４．お客さまの満足度を高めるための態勢整備	P.9 【取組状況】②③

＜本件に関するお問い合わせ先＞
東春信用金庫　業務推進部
電話番号　０５６８－７２－２１８１（代表）
受付時間　平日　９：００～１７：００

1．お客さまのニーズに適した商品ラインアップの整備とサービスの充実

取組事項
➢ お客さまのニーズや目的に応じて最適な商品をご選択いただけるよう、商品ラインアップの見直し・整備をするとともに、サービスの充実を図ります。

【取組状況】

① 当金庫では、お客さまのニーズにお応えするよう定期的にラインアップの見直しを実施しており、令和４年度は投資対象資産・投資対象地域の異なる２６ファンドをラインアップいたしました。

② 当金庫では、中長期的なお客さまの資産形成・運用の目的やリスク許容度に応じた商品をご選好できるよう幅広いファンドをラインアップしています。

③ 新規導入・改廃にあたっては、ファンドの特性・リスクを十分に検討し、中長期運用・分散・積立に適した分かりやすいファンドを選定しています。

投資信託　ファンドラインアップ

投資信託ファンドラインアップ数

地域	主要資産	令和3年（2021年）３月末	令和4年（2022年）３月末	令和5年（2023年）３月末
国内	株式	5	5	5
	債券	1	1	1
	リート	1	1	1
海外	株式	6	6	7
	債券	3	3	3
	リート	1	1	1
国内・海外複合	株式	3	3	3
	債券			
	リート			
バランス型		5	5	5
合計		**24**	**25**	**26**
	うち、ノーロード	**4**	**4**	**4**

新規導入・改廃となったファンド

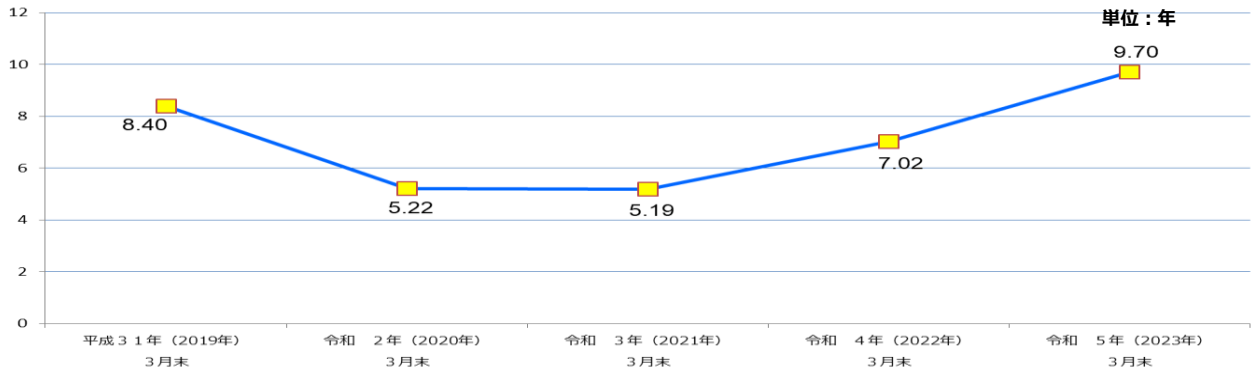
【取組状況】

① 令和４年度は、新規に１ファンドを導入しました。

令和４年度に 新規導入したファンド	米国連続増配成長株オープン＜愛称：女神さま＞ （岡三アセットマネジメント）

② 既取扱いファンドの改正・廃止は行いませんでした。

投資信託の平均保有期間



2. お客さま本位のコンサルティングの実施

取組事項
➢ お客さまの安定的な資産形成や資産運用のために、知識・経験・財産の状況・目的をしっかりとお聞きし、それに基づいたコンサルティングを行い、お客さまに適した商品をご案内します。 ➢ また、お客さまにご負担いただく手数料について、透明性を高めて分かりやすく説明いたします。

【取組状況】

① 当金庫は「金融商品に関するお客さま本位の業務運営取組方針」に基づき、お客さまにとって最適な商品・サービスを分かりやすくご提案することを心掛け、特定の商品・サービスにかたよった販売は行っていません。

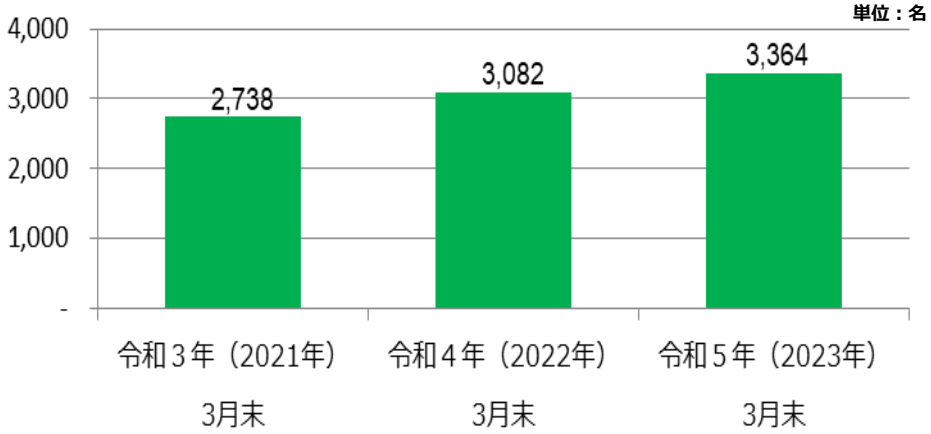
② 中長期的な資産形成・運用の必要性とそれに適う資産ポートフォリオの構築やファンドをご提案するなど、お客さまの最善の利益を図ることを目指した商品・サービスのご提案をしています。

③ 商品のご提案にあたっては、事前にお客さまのライフプラン・ライフイベント・ご資産の状況・お取引の経験・知識・目的・ニーズ等をしっかりお聴きいたします。

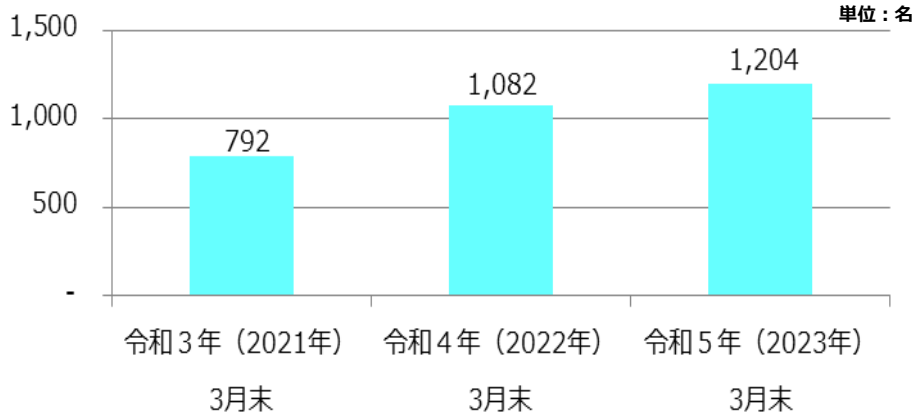
④ ご契約にあたっては、重要情報シート・目論見書・目論見書補完書面にてファンドの内容・特性・リスクの所在をご説明するとともに、ご契約時や運用期間中、その他に必要となる手数料についても重要情報シート・『投資信託の手数料に関する情報提供』によって丁寧にご説明いたします。

⑤ ファンドの複雑さやリスクの大きさ、お客さまのご年齢やご経験に応じたきめ細やかなご説明に努めています。

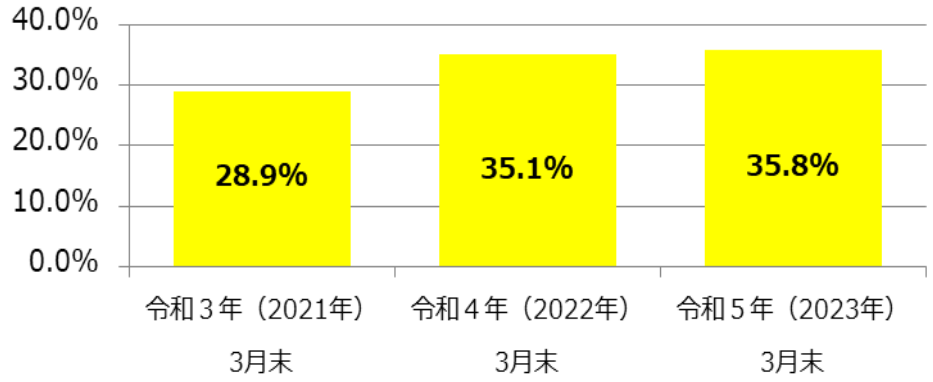
＜とうしゅん＞で投資信託を保有されているお客さま



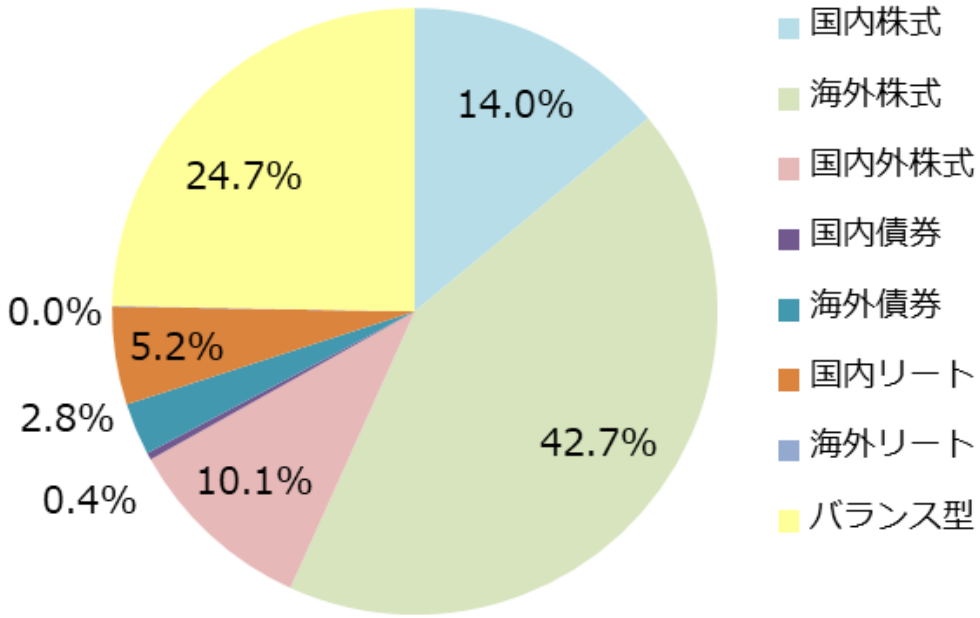
＜とうしゅん＞でつみたて投資をご利用されているお客さま



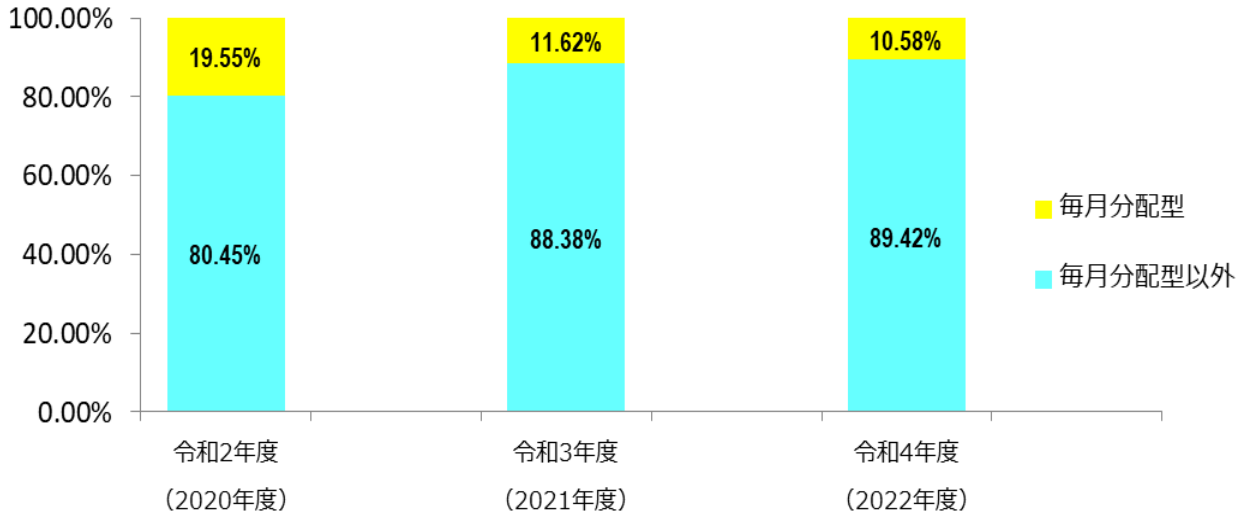
＜とうしゅん＞で投資信託を保有しているお客さまのつみたて投資をご利用されている割合



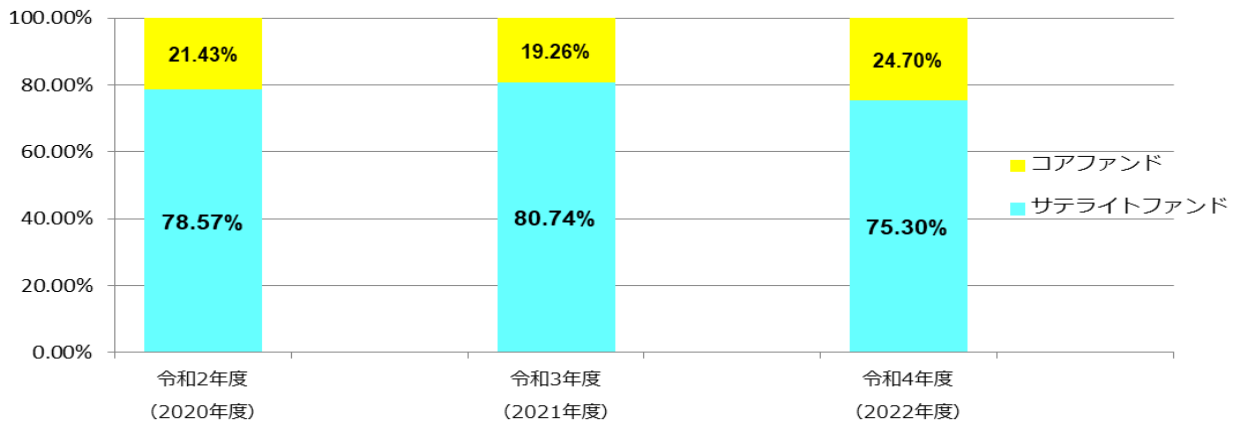
カテゴリー別販売比率



毎月分配型ファンドの販売割合

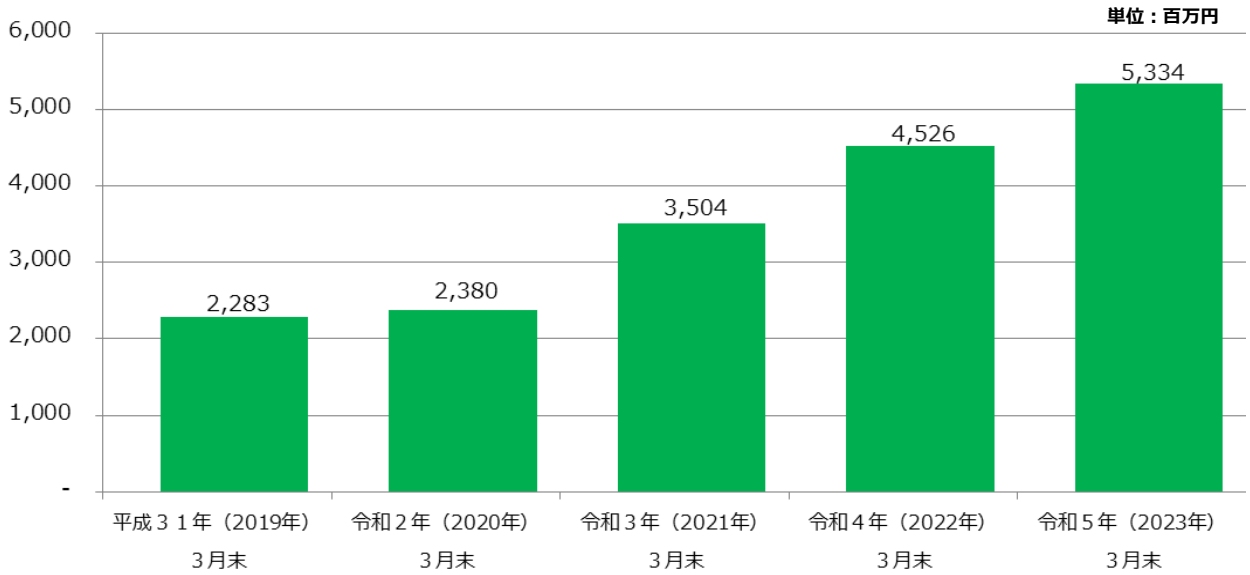


コアファンドの販売割合

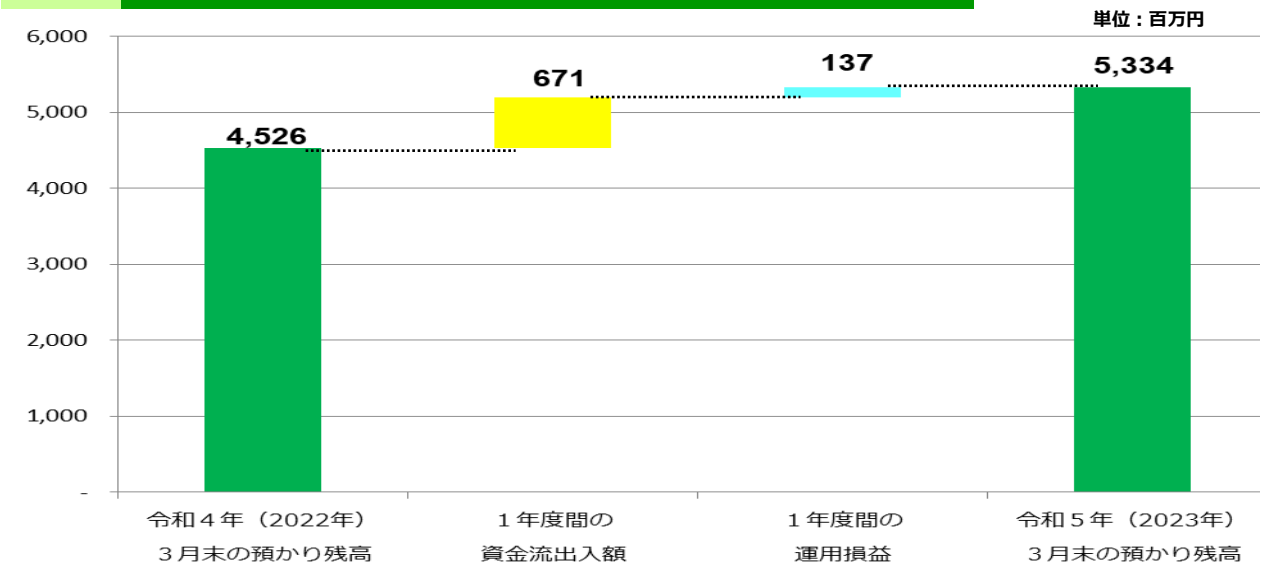


※コアファンド
当金庫の基準により選定したバランス型ファンドを中心とした中長期での運用に適したファンドを指します。

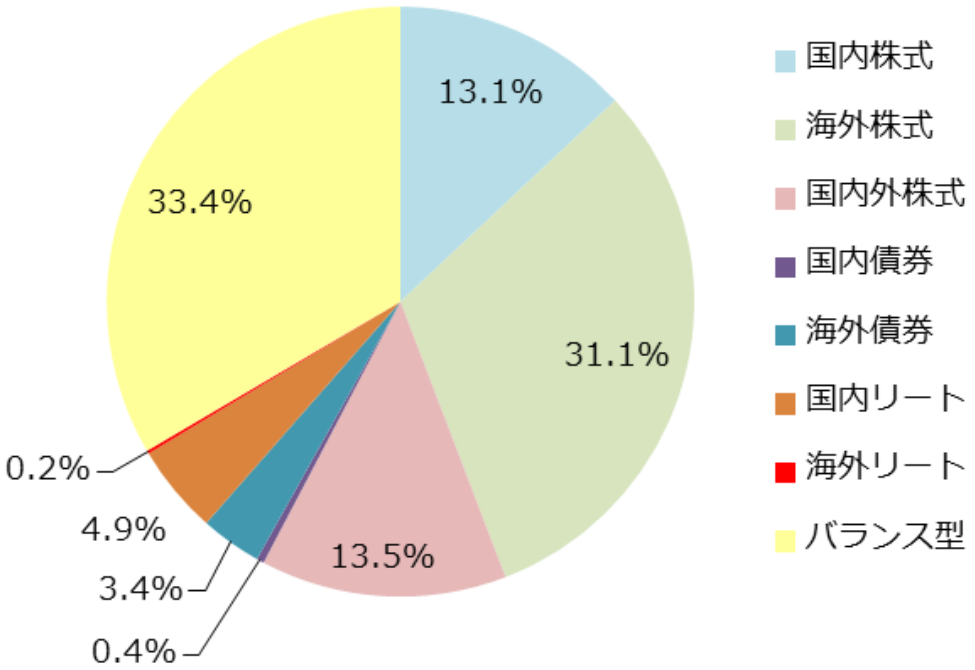
お預かり残高の推移



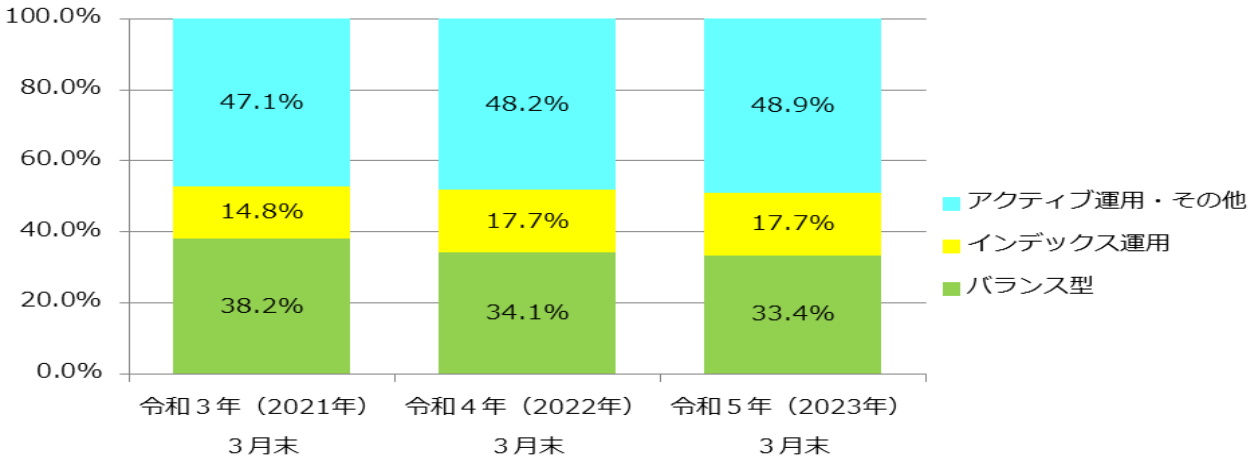
お預かり残高の状況



預かり残高の割合



運用手法別の預かり残高割合



3. フォローアップの実施を通じたお客さまとの信頼関係の構築

取組事項
➢ 商品サービス提供後の継続的にフォローアップを通じて、お客さまの安定的な資産形成や資産運用に役立つよう、市場動向や現在価額等の情報提供に努めます。

【取組状況】

① 日頃のご来店時や訪問活動を通じて継続的な情報提供を行い、お客さまからのご相談・ご質問に的確にお応えするよう態勢の整備に努めています。

② お客さまのライフプランやニーズの変化、投資環境の変化に応じて、必要な情報をご提供するようフォローアップの充実を図っています。

ご契約後のフォローアップ実施状況

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
<とうしゅん>で投資信託を保有しているお客さま	2,738	3,082	3,364
年度中にフォローアップをさせていただいたお客さま	1,092	943	1,034
実施率	39.9%	30.6%	30.7%

資産運用セミナーの開催状況

令和４年度	令和４年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催を控えました。

4. お客さまの満足度を高めるための態勢整備

取組事項
➢ お客さまの満足度を高めるために、高い専門性と倫理観を備えた人材を育成し、より良い販売態勢の整備に努めます。

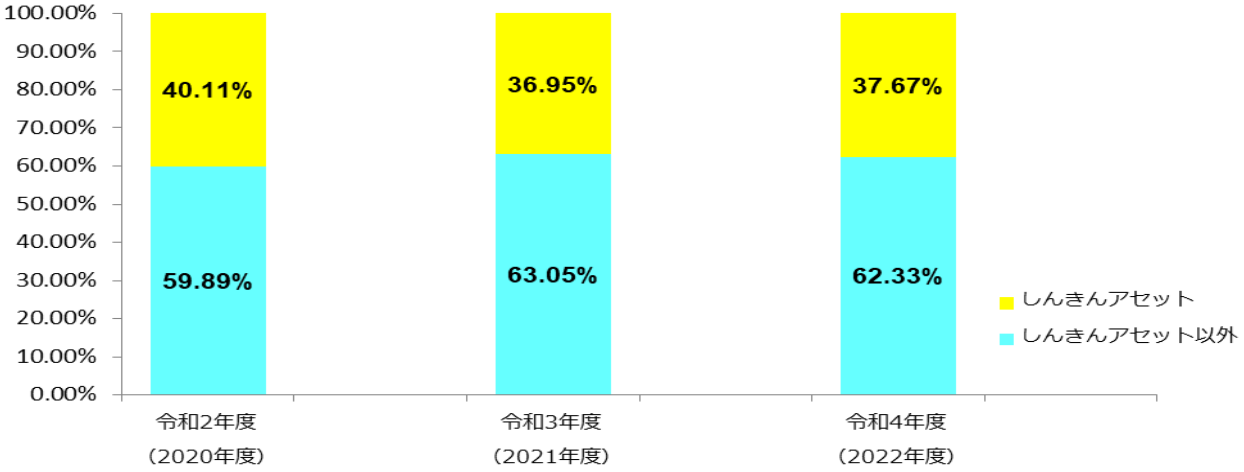
【取組状況】

① 別に公表しております「利益相反管理方針」に沿って、お客さまの利益が不当に損なわれることがないよう対応しています。

② 定期的な職員研修の実施を通じて、職員の知識やスキルの向上に努め、お客さまの安定的な資産形成・資産運用に適した商品・サービスをご提案できる人材の育成に取り組んでいます。

③ 「お客さま本位の業務運営」の実現と定着によってお客さまの最善の利益を追求し、将来に向けたお客さまの満足度が一層高まるよう、今後も金庫内の態勢を最適に整備してまいります。

運用会社別販売割合



研修・勉強会の実施状況

令和４年度における研修・勉強会の実施状況

＜資産形成・金融商品に関する研修・勉強会＞

実施回数	３回
受講職員数	１７４名（延べ人数）

＜顧客本位の業務運営・コンプライアンス
に関する研修・勉強会＞

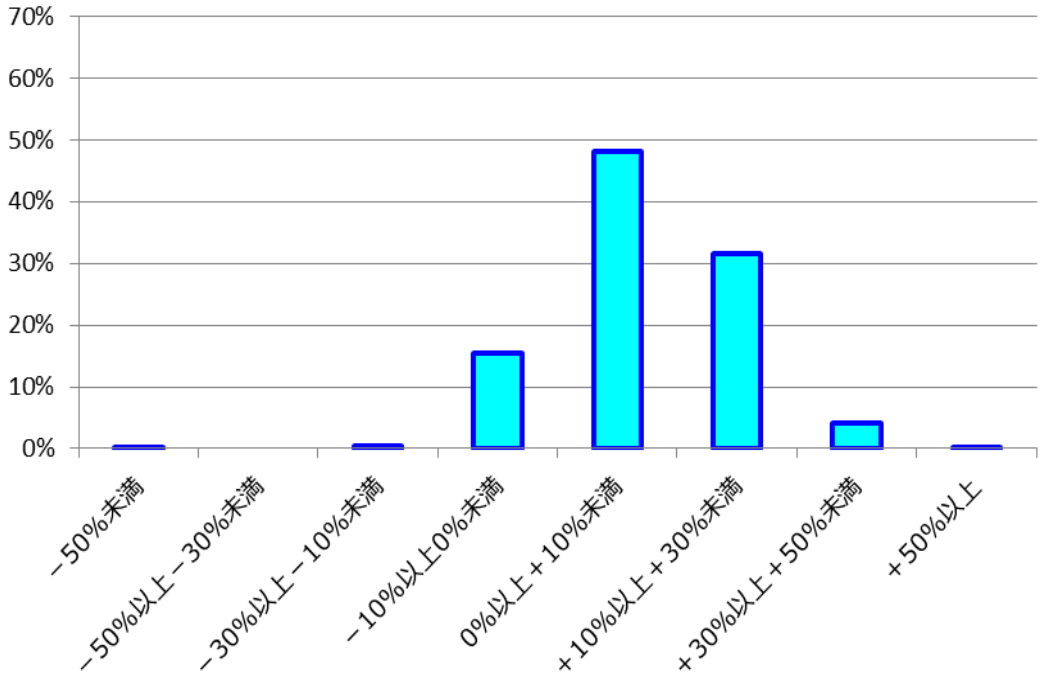
実施回数	５回
受講職員数	６８５名（延べ人数）

資格の保有状況

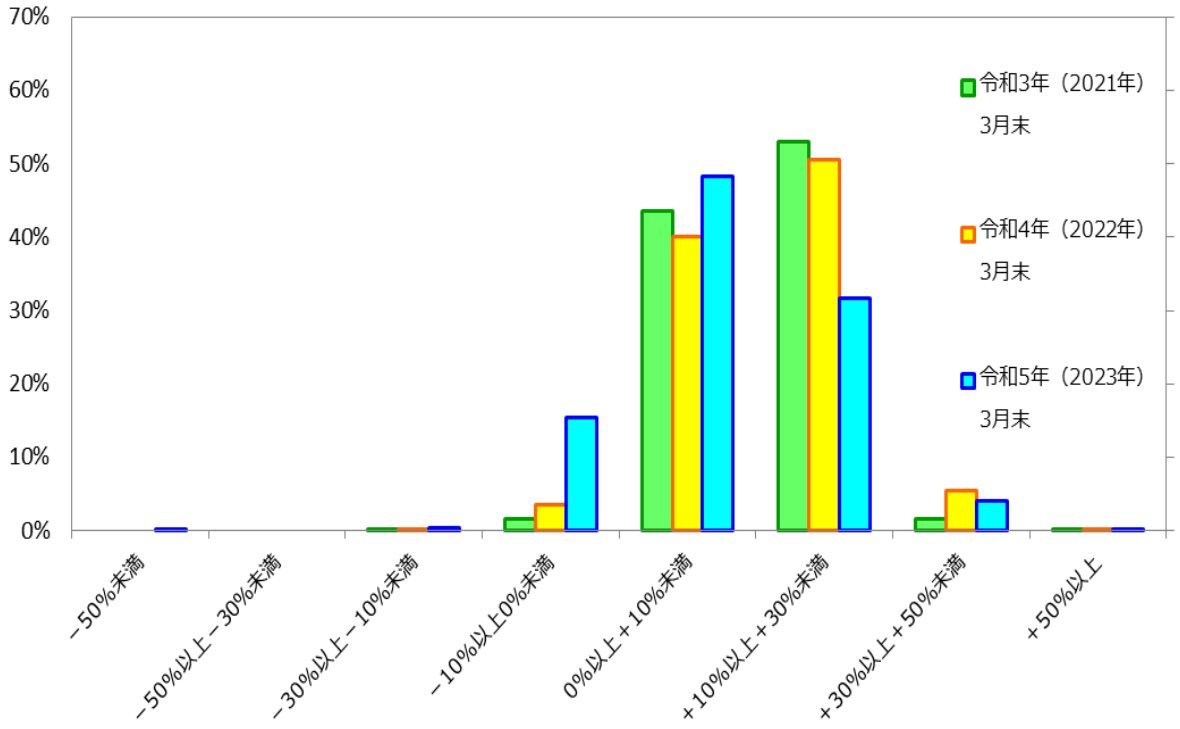
	令和3年3月末	令和4年3月末	令和5年3月末
2級金融窓口サービス技能士（国家資格）	9	9	9

投資信託の運用損益別顧客比率（共通KPI）

令和５年（２０２３年）３月末



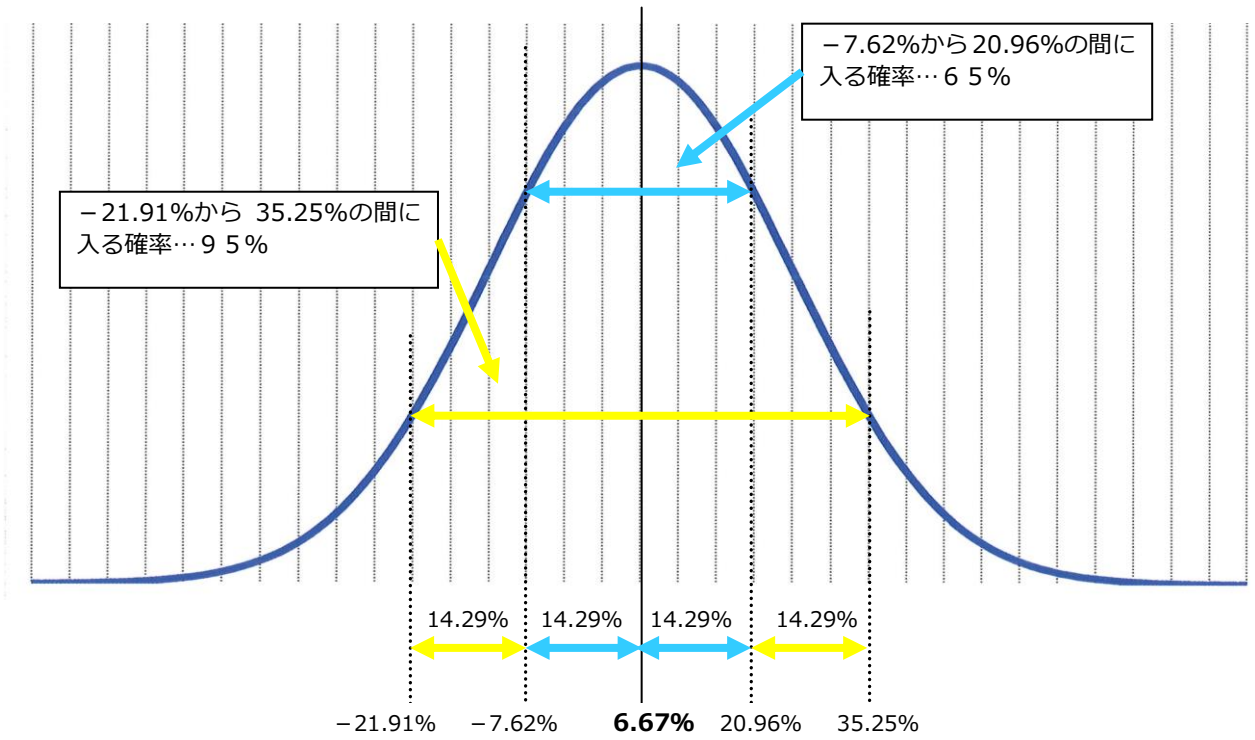
＜３期連続＞



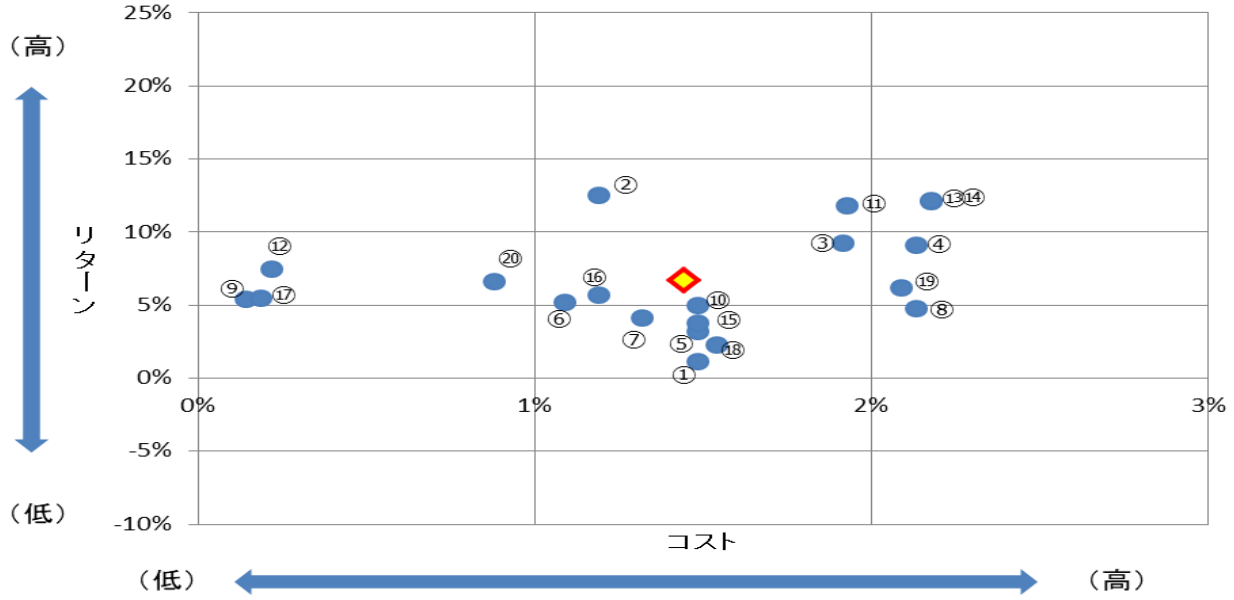
投資信託のお預かり残高上位銘柄のコスト・リスク・リターン（共通KPI）
令和５年（２０２３年）３月末

	ファンド名称	コスト	リスク	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	1.49%	6.12%	1.15%
②	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	1.19%	18.26%	12.55%
③	ＡＩ（人工知能）活用型世界株ファンド	1.91%	17.25%	9.27%
④	ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）	2.13%	14.48%	9.09%
⑤	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	1.49%	14.60%	3.17%
⑥	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	1.09%	20.73%	5.16%
⑦	しんきん好配当利回り株ファンド	1.32%	15.39%	4.16%
⑧	ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）	2.13%	13.93%	4.73%
⑨	たわらノーロードバランス（８資産均等型）	0.14%	10.14%	5.41%
⑩	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	11.00%	4.97%
⑪	米国連続増配成長株オープン	1.93%	16.07%	11.83%
⑫	たわらノーロード先進国株式＜為替ヘッジあり＞	0.22%	17.10%	7.44%
⑬	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	2.18%	19.83%	12.10%
⑭	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	2.18%	19.83%	12.14%
⑮	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	9.31%	3.74%
⑯	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	1.19%	17.04%	5.65%
⑰	たわらノーロードＴＯＰＩＸ	0.19%	15.07%	5.49%
⑱	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	1.54%	7.81%	2.31%
⑲	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	2.09%	9.02%	6.20%
⑳	しんきんインデックスファンド２２５	0.88%	17.04%	6.60%

	コスト	リスク	リターン
残高加重平均値	1.44%	14.29%	6.67%

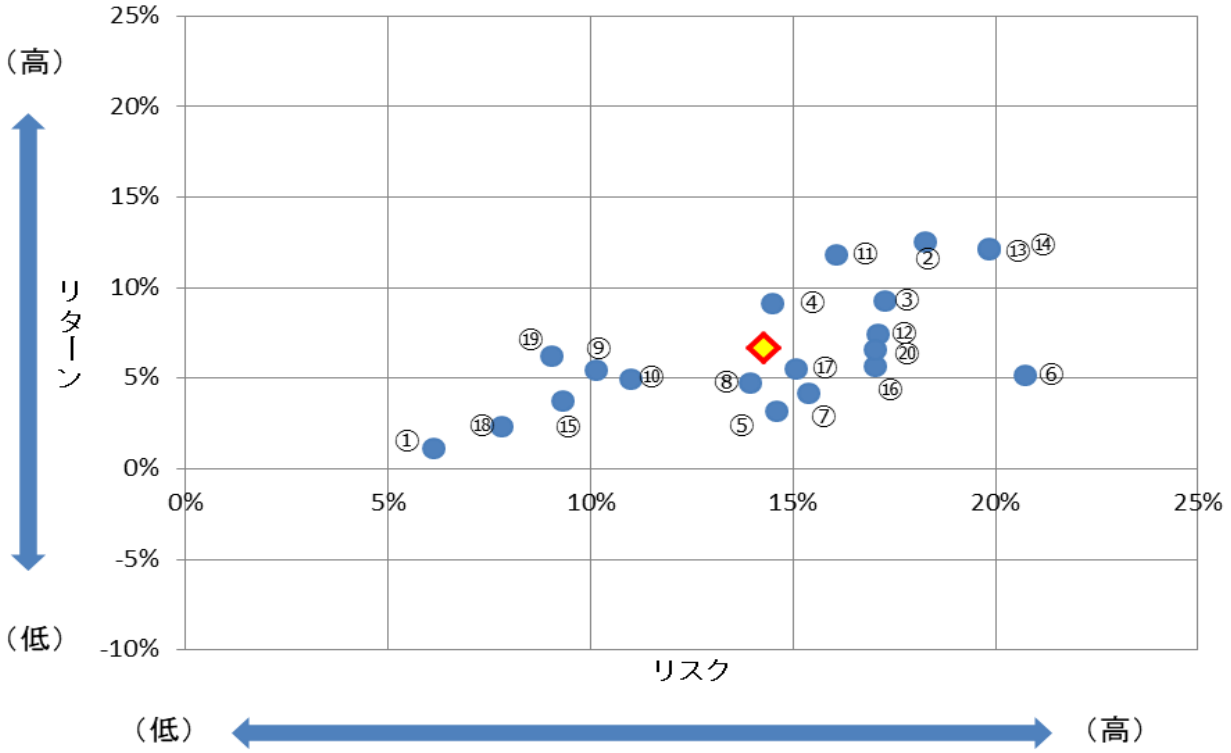


投資信託のお預かり残高上位銘柄のコスト・リターン（共通KPI）
令和５年（２０２３年）３月末



残高加重平均値	コスト	リターン
	1.44%	6.67%

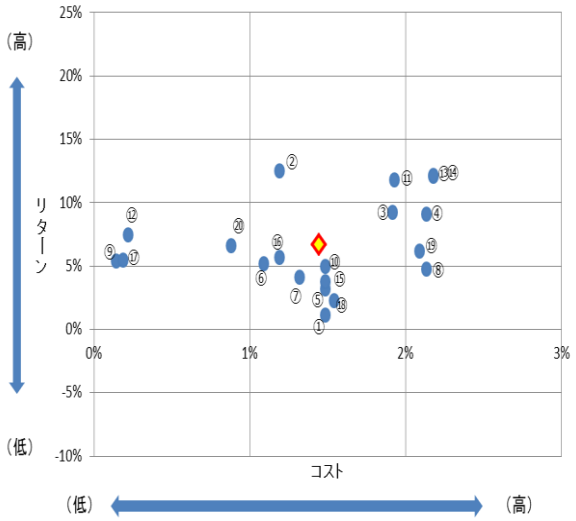
投資信託のお預かり残高上位銘柄のリスク・リターン（共通KPI）
令和５年（２０２３年）３月末



残高加重平均値	リスク	リターン
	14.29%	6.67%

投資信託のお預かり残高上位銘柄のコスト・リターン（共通KPI）　３期連続

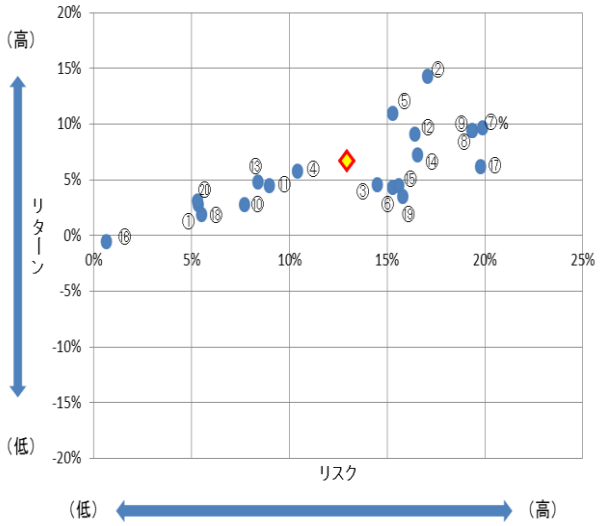
令和５年（２０２３年）３月末



	ファンド名称	コスト	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	1.49%	1.15%
②	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	1.19%	12.55%
③	ＡＩ（人工知能）活用型世界株ファンド	1.91%	9.27%
④	ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）	2.13%	9.09%
⑤	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	1.49%	3.17%
⑥	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	1.09%	5.16%
⑦	しんきん好配当利回り株ファンド	1.32%	4.16%
⑧	ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）	2.13%	4.73%
⑨	たわらノーロードバランス（８資産均等型）	0.14%	5.41%
⑩	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	4.97%
⑪	米国連続増配成長株オープン	1.93%	11.83%
⑫	たわらノーロード先進国株式＜為替ヘッジあり＞	0.22%	7.44%
⑬	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	2.18%	12.10%
⑭	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	2.18%	12.14%
⑮	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	3.74%
⑯	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	1.19%	5.65%
⑰	たわらノーロードＴＯＰＩＸ	0.19%	5.49%
⑱	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	1.54%	2.31%
⑲	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	2.09%	6.20%
⑳	しんきんインデックスファンド２２５	0.88%	6.60%

	コスト	リターン
残高加重平均値	1.44%	6.67%

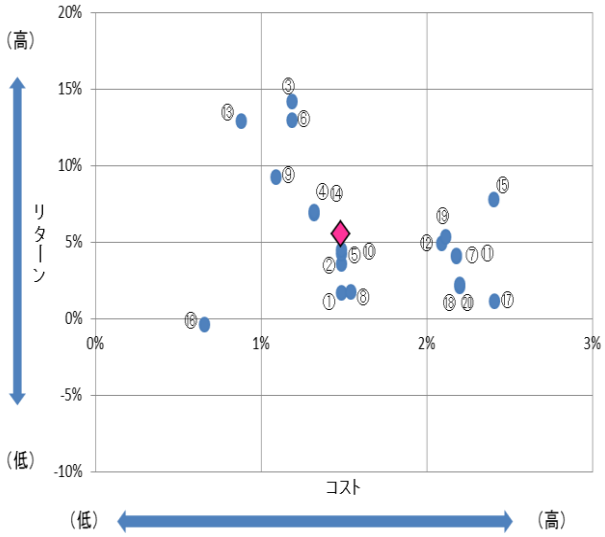
令和４年（２０２２年）３月末



銘柄番号	銘柄名	コスト	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	1.49%	1.87%
②	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	1.19%	14.35%
③	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	1.49%	4.59%
④	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	5.77%
⑤	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	1.19%	11.02%
⑥	しんきん好配当利回り株ファンド	1.32%	4.31%
⑦	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	1.09%	9.66%
⑧	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	2.18%	9.41%
⑨	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	2.18%	9.44%
⑩	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	1.43%	2.80%
⑪	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	4.51%
⑫	しんきんインデックスファンド２２５	0.88%	9.11%
⑬	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	2.09%	4.81%
⑭	しんきんアジアＥＴＦ株式ファンド	2.45%	7.24%
⑮	しんきん好配当利回り株ファンド（３ヵ月決算型）	1.32%	4.52%
⑯	しんきん公共債ファンド	0.66%	-0.50%
⑰	三井住友・グローバル・リート・オープン（３ヵ月決算型）	2.41%	6.21%
⑱	ニッセイ／パトナム・毎月分配インカムオープン	2.20%	2.78%
⑲	ダイワ・バリュー株・オープン	2.11%	3.54%
⑳	ニッセイ／パトナム・インカムオープン	2.20%	3.08%

	コスト	リターン
残高加重平均値	1.46%	6.65%

令和３年（２０２１年）３月末

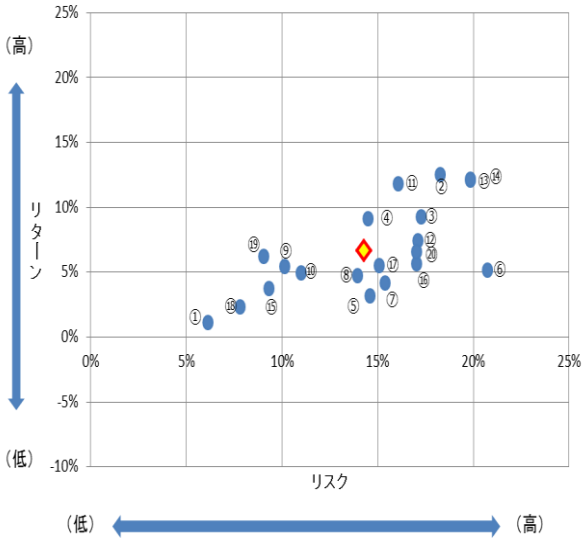


銘柄番号	銘柄名	コスト	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	1.49%	1.71%
②	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	1.49%	3.55%
③	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	1.19%	14.21%
④	しんきん好配当利回り株ファンド	1.32%	6.86%
⑤	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	4.23%
⑥	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	1.19%	12.98%
⑦	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	2.18%	4.08%
⑧	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	1.54%	1.76%
⑨	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	1.09%	9.24%
⑩	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	1.49%	4.49%
⑪	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	2.18%	4.11%
⑫	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	2.09%	4.89%
⑬	しんきんインデックスファンド２２５	0.88%	12.90%
⑭	しんきん好配当利回り株ファンド（３ヵ月決算型）	1.32%	6.96%
⑮	しんきんアジアＥＴＦ株式ファンド	2.41%	7.80%
⑯	しんきん公共債ファンド	0.66%	-0.41%
⑰	三井住友・グローバル・リート・オープン（３ヵ月決算型）	2.41%	1.15%
⑱	ニッセイ／パトナム・毎月分配インカムオープン	2.20%	2.13%
⑲	ダイワ・バリュー株・オープン	2.11%	5.37%
⑳	ニッセイ／パトナム・インカムオープン	2.20%	2.23%

	コスト	リターン
残高加重平均	1.48%	5.50%

投資信託のお預かり残高上位銘柄のリスク・リターン（共通KPI）　３期連続

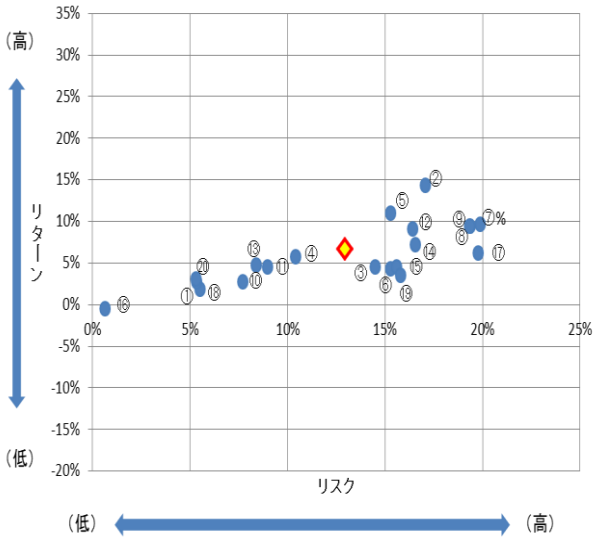
令和５年（２０２３年）３月末



	ファンド名称	リスク	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	6.12%	1.15%
②	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	18.26%	12.55%
③	ＡＩ（人工知能）活用型世界株ファンド	17.25%	9.27%
④	ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）	14.48%	9.09%
⑤	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	14.60%	3.17%
⑥	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	20.73%	5.16%
⑦	しんきん好配当利回り株ファンド	15.39%	4.16%
⑧	ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジあり）	13.93%	4.73%
⑨	たわらノーロードバランス（８資産均等型）	10.14%	5.41%
⑩	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	11.00%	4.97%
⑪	米国連続増配成長株オープン	16.07%	11.83%
⑫	たわらノーロード先進国株式＜為替ヘッジあり＞	17.10%	7.44%
⑬	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	19.83%	12.10%
⑭	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	19.83%	12.14%
⑮	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	9.31%	3.74%
⑯	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	17.04%	5.65%
⑰	たわらノーロードＴＯＰＩＸ	15.07%	5.49%
⑱	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	7.81%	2.31%
⑲	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	9.02%	6.20%
⑳	しんきんインデックスファンド２２５	17.04%	6.60%

	リスク	リターン
残高加重平均値	14.29%	6.67%

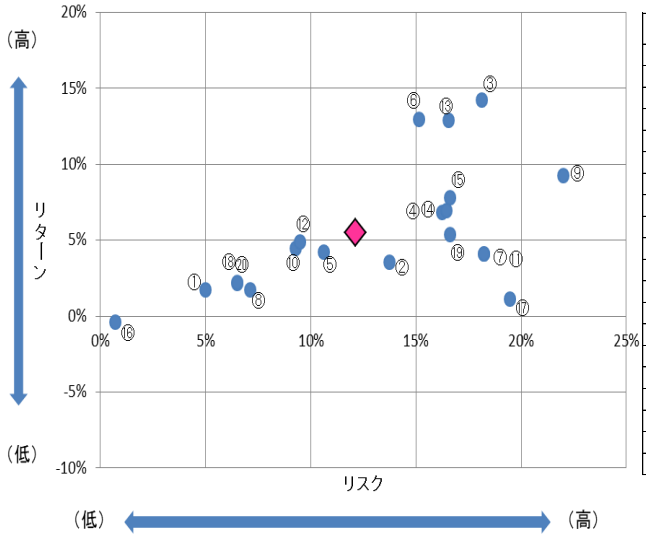
令和４年（２０２２年）３月末



銘柄番号	銘柄名	リスク	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	5.51%	1.87%
②	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	17.08%	14.35%
③	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	14.50%	4.59%
④	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	10.41%	5.77%
⑤	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	15.30%	11.02%
⑥	しんきん好配当利回り株ファンド	15.28%	4.31%
⑦	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	19.86%	9.66%
⑧	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	19.35%	9.41%
⑨	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	19.34%	9.44%
⑩	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	7.69%	2.80%
⑪	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	8.99%	4.51%
⑫	しんきんインデックスファンド２２５	16.42%	9.11%
⑬	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	8.39%	4.81%
⑭	しんきんアジアＥＴＦ株式ファンド	16.56%	7.24%
⑮	しんきん好配当利回り株ファンド（３ヵ月決算型）	15.58%	4.52%
⑯	しんきん公共債ファンド	0.63%	-0.50%
⑰	三井住友・グローバル・リート・オープン（３ヵ月決算型）	19.78%	6.21%
⑱	ニッセイ／パトナム・毎月分配インカムオープン	5.35%	2.78%
⑲	ダイワ・バリュー株・オープン	15.78%	3.54%
⑳	ニッセイ／パトナム・インカムオープン	5.29%	3.08%

	リスク	リターン
残高加重平均値	12.97%	6.65%

令和３年（２０２１年）３月末



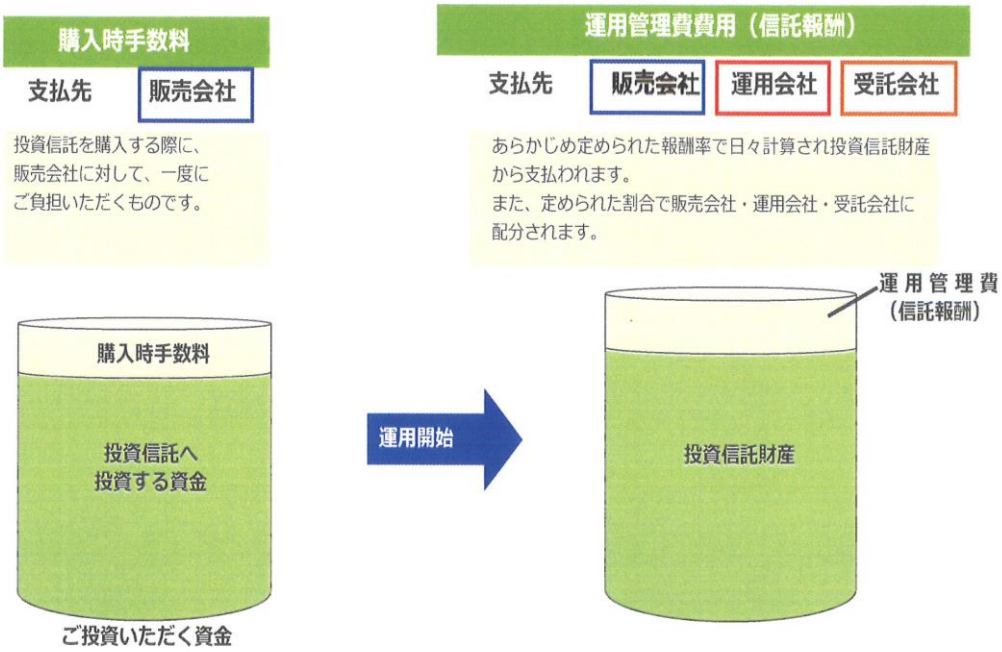
銘柄番号	銘柄名	リスク	リターン
①	しんきん世界アロケーションファンド（積極型）	5.00%	1.71%
②	しんきんＪリートオープン（毎月決算型）	13.73%	3.55%
③	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ノーヘッジ型）	18.14%	14.21%
④	しんきん好配当利回り株ファンド	16.24%	6.86%
⑤	しんきんグローバル６資産ファンド（毎月決算型）	10.60%	4.23%
⑥	三井住友・ＮＹダウ・ジョーンズ・インデックスファンド（為替ヘッジ型）	15.14%	12.98%
⑦	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（毎月決算型）	18.25%	4.08%
⑧	ＤＩＡＭ高格付インカム・オープン（毎月決算コース）	7.13%	1.76%
⑨	トヨタ自動車／トヨタグループ株式ファンド	22.00%	9.24%
⑩	しんきん３資産ファンド（毎月決算型）	9.29%	4.49%
⑪	ワールド・インフラ好配当株式ファンド（成長型）	18.24%	4.11%
⑫	三井住友・米国ハイ・イールド債券ファンド（為替ノーヘッジ型）	9.48%	4.89%
⑬	しんきんインデックスファンド２２５	16.54%	12.90%
⑭	しんきん好配当利回り株ファンド（３ヵ月決算型）	16.46%	6.96%
⑮	しんきんアジアＥＴＦ株式ファンド	16.62%	7.80%
⑯	しんきん公共債ファンド	0.72%	-0.41%
⑰	三井住友・グローバル・リート・オープン（３ヵ月決算型）	19.48%	1.15%
⑱	ニッセイ／パトナム・毎月分配インカムオープン	6.50%	2.13%
⑲	ダイワ・バリュー株・オープン	16.60%	5.37%
⑳	ニッセイ／パトナム・インカムオープン	6.49%	2.23%

	リスク	リターン
残高加重平均	12.11%	5.50%

投資信託の手数料に関する情報提供

・<とうしゅん>では、投資信託をご購入および保有していただく際に「ご提供するサービス」の対価として、各種手数料をご負担いただいています。
・これらの手数料につきましては、お客さまがニーズに沿った商品を選択できるような情報提供の取り組みを進めています。
・こうした手数料に関しましては、契約締結前交付書面や交付目論見書・各種パンフレットなどを通じて、金融商品のご提供に際して分かりやすくご説明を行うように努めています。

【投資信託の手数料のイメージ】



【お客さまにご負担いただく手数料とご提供サービス】

取引段階	手数料の種類	ご提供するサービス例
ご購入時	購入時手数料	✧ お客さまがニーズに合った商品を選択していただけるように、また、お客さまが資産運用に際して適切なご判断ができるように、マーケット等に関する情報提供を行います。 ✧ お客さまのご年齢・投資に関するご経験・お持ちの金融資産・お取引の目的等を確認し、受け入れ可能なリスク水準等を総合的に勘案した上で、ニーズに合った適切な商品の提案を行います。 ✧ お客さまの投資に係るご経験等を踏まえ、商品性・リスク・コスト等の重要事項をお客さまにご理解いただけるように分かりやすく説明を行います。 ✧ ご契約に関する事務手続きを行います。
保有時（継続）	運用管理費（信託報酬）	✧ お客さまを取り巻く環境の変化や運用状況等を踏まえて、継続的にお客さまの適切な投資判断に役立つ情報提供を行います。 ✧ 運用報告書など各種書類のご送付、分配金・償還金のお支払い、解約手続き等を行います。

※ 上記は、東春信用金庫が販売会社としてお客さまにご負担いただく手数料を指しており、投資信託に関してお客さまにご負担いただく手数料は上記に限りません。
※ 手数料・費用の詳細は、交付目論見書・目論見書補完書面・契約締結前交付書面にてご確認ください。
※ 上記は、「ご提供するサービス例」として掲載するものですので、全てのお客さまに当てはまるものとは限りません。

【購入時手数料の概算額について】

ご投資いただく資金	購入時手数料率（税込み）	購入時手数料（概算額）	ファンド買付金額
１，０００，０００円	１．１０％	１０，８８０円	９８９，１２０円
	１．６５％	１６，２３２円	９８３，７６８円
	２．２０％	２１，５２６円	９７８，４７４円
	３．３０％	３１，９４６円	９６８，０５４円

※ 算出式

ご投資いただく資金÷（１＋購入時手数料率）×購入時手数料率＝購入時手数料額（概算額）

【運用管理費用（信託報酬）について】

・運用管理費用（信託報酬）は、[運用期間中の基準価額×運用管理費用率（信託報酬率）]で算出されます。
・また、その他費用・手数料などがファンドから支払われますが、これらは事前に両立・上限などを表示することができません。
・運用管理費用率（信託報酬率）は各ファンドにより異なります。各ファンドの詳細は交付目論見書にてご確認ください。

【信託財産留保額（解約時にお支払いいただく費用）について】

・投資信託をご解約される際に信託財産留保額がかかるファンドがあります。
・信託財産留保額の有無につきましては各ファンドの交付目論見書にてご確認ください。
・信託財産留保額がかかるファンドでは、ご解約時に「基準価額×信託財産留保額○．○○％」が、解約代金から差し引かれます。

※ 算出例

信託財産留保額　０．３％・ご解約時の信託財産留保額控除前の基準価額が１１，０００円の場合

信託財産留保額＝１１，０００円×０．３％＝３３円

ご解約時の基準価額＝１１，０００円－３３円＝１０，９６７円

一定の投資性金融商品の販売・仲介に係る

重要情報シート（金融事業者編）

東春信用金庫

本書面には、東春信用金庫の基本情報、取扱商品および取扱商品選定の考え方等を記載しています。
当金庫で資産形成をご検討の際に、あらかじめご確認ください。

１．当金庫の基本情報（当金庫はお客さまに金融商品の販売[または販売仲介]をする者です）

信用金庫名	東春信用金庫
登録番号	東海財務局長（登金）第５２号
加入協会	なし
当金庫の概要を記したWEBサイト	http://www.toshun.co.jp/outline/outline.php

２．取扱商品（当金庫がお客さまに提供できる金融商品の種類は次のとおりです）

預金（投資性なし）	○	預金（投資性あり）	
国内株式		外国株式	
円建債券	○	外貨建債券	
特殊な債券（仕組債等）		投資信託	○
ラップ口座		ＥＴＦ・ＥＴＮ	
ＲＥＩＴ		その他の上場商品	
保険（投資リスクなし）	○	保険（投資リスクあり）	
これら以外の商品			

※円建債券は「個人向け国債」のみ取り扱っています。

３．商品ラインアップの考え方（当金庫の商品選定のコンセプトや主な留意点は次のとおりです）

○お客さまのご資産の状況・お取引経験・知識および資産形成の目的・ニーズ等に応じて適切な商品を提供できるよう継続的に商品ラインアップの見直しを行い、上質な商品ラインアップとなるよう整備するとともに、サービスの充実をはかります。
○商品を採用する際は、特性・リスク等を精査し、お客さまの安定的な資産形成や資産運用に資する商品を採用します。

４．苦情・相談窓口

当金庫の相談窓口	お客様相談室：０５６８－７５－３０４８ （受付時間：当金庫営業日の９時～１７時）
加入協会共通の相談窓口	全国しんきん相談所：０３－３５１７－５８２５ （受付時間：金融機関営業日の９時～１７時）
金融庁金融サービス利用者相談室	０５７０－０１６８１１ （０３－５２５１－６８１１）